

東京2020五輪 聖火リレーのランナー 釣井 観広さんに インタビュー



7月24日開催の東京2020大会を前に、聖火リレーが3月26日から福島県で始まります。高知県は13カ所目として4月20～21日に行われる予定です。

この度、東京2020オリンピック聖火リレー高知県実行委員会選出枠での内定者である釣井観広さん(12歳・栗生)にインタビューを行いました!

聖火リレーランナーへの応募のきっかけは?

以前から、高知市内のサッカークラブや高知くろしおキッズへの参加を通しての友人づくりや、スポーツ自体の楽しさを感じていました。今回の応募は、家族から紹介され自分から出たいと応募を決めました。

た。内定の発表があった後、まわりからの反応も多かったです。家族親戚中でも盛り上がっています。

率直に今の気持ちを教えてください!

3月12日のギリシャでの聖火式を見て、いよいよ始まるんだなという思いです。緊張と楽しみが半々で、今は走った後の心境の変化までは想像が付きません。

また、リレーでは色々制約があり、服装、トーチの渡し方まで決められています。大豊らしくゆずを持って走りたかったですがそれは無理みたいです。(笑)

最後に本番への抱負をお願いします!

県内最年少ランナーの一人なので、活き活きと。そして、たくさんの人が聖火を繋いできた思いを胸に、また、大豊町代表としてしっかりと走りたいです。



大豊町の木がオリパラで活躍!?

1月29日に、本町が木材を提供した東京2020オリンピック・パラリンピックの選手村ヴィレッジプラザにおいて、自治体向け内覧会が開催されました。

本町からは佐賀山地区の町有林整備で搬出されたスギ間伐材を約70㎡分(長さ3mで398本)提供しました。この間伐材はCLT加工され、本施設では床や壁に活用されており、木目をそのまま使われているところが大きな特徴です。

大会期間中、各国の選手を文字どおり支える大豊町のスギは、活躍が期待されるスタッフの一員となるでしょう。



まちのできごと



銀不老豆の絵本をプレゼント
2月10日、高知市の旅館、城西館から町内の全園児へ絵本「どうして? ぼくはまっくろくろ?」がプレゼントされました。
プレゼントされた絵本は、本町の特産品銀不老豆が題材となったもので、以前から銀不老豆を使ったお菓子を販売している城西館が作家の永井みさえさんに依頼して作成されたものです。
この日は作家の永井さんによる読み聞かせも行われ、銀不老を初めて知った園児も興味津々で聞いていました。



突然の「6年生を送る会」
2月28日、おおとよ小学校の「6年生を送る会」が行われました。
本来であれば卒業式で行われるものですが、新型コロナウイルス感染症対策として3月からの休校が前日に決まったことから急遽行われました。練習も少ない中での本番となりましたが、式歌斉唱では涙を流す児童も多く、在校生と卒業生の想いが詰まった会となりました。
また、卒業式は後日関係者のみで行われました。



立川で桜の苗木を植樹
3月7日、立川の瀬地区で集活センター「そばの里 立川」による桜の苗木の植樹が行われました。
この事業は、桜によって地域や来た人を喜ばせようという思いから行われたもので、地元立川の各集落の方や役場職員などが約100本の苗木(ソメイヨシノ)を植えました。
県道から川沿いに見られる位置に植えられたので、多くの満開の桜が見られる日が楽しみです。